

【優秀賞】

【未来につながる美しい命水】

名古屋市立宝神中学校 三年 濱野 彩音

私は小学校五年生の頃、重症型の起立性調節障害と診断されました。診断されてから治療を開始するまでは、毎朝吐き気やめまい、だるさとの闘いでした。起き上がることもすら難しく、学校へも通えなくなりました。三ヶ月ほど入院することになり、学校も院内学級へ転校になりました。

入院中、病院の先生には、何度も「水分をしつかり摂りなさい、目標は一日一リットルね」と指導を受けました。それから私は、意識的によりの多くの水分を摂取するよう心がけました。すると、数ヶ月かかりましたが、体調は徐々に快方へ向かい、無事退院することができました。そして、以前と同じ学校へ通えるようになりました。

退院後、私は何故多くの水分を摂取することが病状の改善につながったのかを疑問に思い、調べてみることにしました。水に関する本やインターネットを用いて調べた結果、さまざまなことが分かりました。人の体の6割から7割は水分が占めており、口から摂取した水分は血流を促し、血圧を安定させる役割を果たしているのです。また、水は動物たちや木々など、地球全体にとっても必要不可欠な物質であり、生命を維持するのになくはならない物質なのです。では、地球から水が無くなるとうとうなってしまうのでしょうか。人類や陸上生物は勿論、海洋生物や昆虫類、爬虫類なども絶命し、それを主食としていた鳥類も飢え死ぬでしょう。草花や木々も枯れ果て、ついには地球上のほとんどの生物が息絶えてしまうことでしょう。それほど、水は地球にとって大切な物質だったのです。入院中、医師が私に多くの水を摂ることを指示したのは、私の病気は血圧が低下する病気なので、血液量を増やし、血圧を安定させるためだったのです。

私は、病気になったことをきっかけに水の大切さを知り、身近にできることとして、節水することを心がけました。また、川や海の汚染を

防ぐため、洗剤の使いすぎにも気を配りました。そして、地元である愛知県の藤前干潟で行われた清掃ボランティアにも参加しました。そこには想像を上回る量のゴミが捨てられており、自分達がどれだけの水を無駄にし、汚染してきたのかを身をもって実感しました。

私の将来の夢は、動物看護師です。人間に限らず、動物を助けていく上でも多くの水が必要になります。病気の治療や薬の開発、怪我の手当てにも水は使用されます。今はまだ中学生なので、川の清掃ボランティアなどしかできませんが、後々はこの水の大切さをさらに広める活動もしていきたいと思っています。

私の住む名古屋市は、水道水がおいしいと言われています。それは、木曾川の水を生かしつつ、カルキ臭を抑えるためのきめ細かい技術が使われており、配水管内の洗浄も行われているからだそうです。今現在、貧しく水道設備の整っていない国で汚れた水を飲み、病気になって命を落とす人もいます。そのような水による健康被害を無くすためにも、生活排水をできる限り減らし、川や海を綺麗に保つことで、名古屋市のよいうな安全でおいしい水を、全世界の人が飲めるようになってほしいと思います。

個人でできる行動は小さなものかもしれませんが、世界中の人々がゴミの捨て方や水の使い方などに気を付けて生活すれば、あらゆる生物にとって生きやすい世界になるのではないのでしょうか。

水は無限にあるわけではありません。この限りある大切な資源をみんなで見守っていくこそが、今を生きる私たち人間の使命であり、これからを担う私たち中学生の使命でもあるのだと思います。